

キラリ! 輝く人たち

2年前から古河公方公園(古河総合公園)で開催されている「トロマル～古河デ蚤ノ市～」市内だけでなく埼玉県や栃木県、群馬県などから多くの人々が押し寄せます。古物による蚤の市を主催するトロマル実行委員会に開催のきっかけや地元古河に対する思いを伺いました。

別々の道を歩む2人が巡り合う

「トロマル」はドイツ語でトローデルマルクト(蚤の市)の略称。岩井さんはドイツに行った際、ベルリンで見た蚤の市の光景が忘れられず、自分が住む古河でもこんな素敵な雰囲気の蚤の市をやってみたくて思っていたそうです。

金子さんは「古河公方公園づくり円卓会議」のメンバーとして公園の有効活用(たすき)に携わり、公園の素晴らしさをどうしたら多くの人に伝えられるのかを常に考えていました。

そんな2人は4年前に市内で開催されたまちづくりイベントで知り合い、お互いの目標や夢に話が盛り上がり意気投合。別々の道を歩んできた2人が合流し、大きな流れとなって突き進むことになりました。

自分がこのまちにできること

2人が考えるのは「開催したイベントで、にぎわうだけではなくみんなが楽しく参加できる関係になれること。出店者、お客さん、来園者みんなが楽しむことができ、この場所を好きになってもらいたい。イベントが無くても、このまちを訪れたいと思えるファンをたくさん作りたい」と話します。

トロマル開催と同時に企画したのは、遠くから古河に来た人にまち巡りをしてもらい、さらに古河のファンになるきっかけ作り。そのため作成したのが「トロマガジン」「トロマップ」というまち巡りの情報誌でした。

「古河のまちを巡る宝探し」

岩井清志さん(42歳・横山町)

金子典子さん(43歳・中田新田)



蚤の市は一種の宝探しのようなもの。イベント会場を飛び出して古河のまちに点在する素敵なお店を巡ってもらい、そこでも宝探しをしてもらいたいという気持ちが詰まっています。

古物をまちの誇れるものに

初めは「蚤の市って何?」と思う人も多くいましたが、今では多くの人に広がり、2万5,000人以上の人が集まる人気イベントに成長。「トロマル」の開催を楽しみに待つ人もたくさんいるそうです。

それだけではなく「普段からトロマガジンを片手にまち巡りをし、お宝を探す人が増えたことが素直にうれしい」とまちなかで起きている変化を笑顔で話します。

2人のまっすぐな人間性に出店者が惹かれ、2人が作り出すセンスあふれる会場の雰囲気に来場者が惹かれる。そして、まちを思う気持ちに地元商店が惹かれ賛同する。これから2人を中心にどのように広がっていくのか楽しみです。



第5回トロマル～古河デ蚤ノ市～
日時：10月1日(日)午前10時～
場所：古河公方公園

